

「音楽を聴く楽しさを知った喜び —先生への手紙—」



◆油谷中学校3年

松永 尚樹

(財)音楽鑑賞教育振興会が募集した「第二十九回音楽鑑賞教育振興論文・作文」の中学生の部で、油谷中学校3年 松永尚樹君の作品が昨年に引き続き最優秀賞・文部大臣奨励賞に輝きました。表彰式は一月十九日(日)に東京で行われました。
以下、松永君の作品を()紹介します。

.....

初めて鑑賞した曲は、ヒバルティの「四季より春」でした。
—春がやって来た。
小鳥は楽しい歌で、

春を歓迎する。—

今でもソネットを暗唱し、曲を思い浮かべることができるほどです。ところが、当時自分の書いた感想を読み返してみると、わずか三十字程度ですませてしまっていて、自分が、音楽を楽しむということにおいて、いかに幼稚であったか、よく分かります。今なら、もっと違う角度から、この曲を楽しむことができそうです。たとえば、高音楽器と低音楽器の縦の動きなど、おもしろそうです。やはり学年が進むと、音楽へのこだわり方や楽しみ方が変わってくるのですね。先生は、オーケストラでコントラバスをひいておられたそうですが、コントラバスをひきながら、「春」という曲をどう楽しまれたのだろう。今度、聞かせて下さい。

平成六年四月。
—楽しい音ってどんな音かな？
音を楽しんで
どういうこと？—
中学校に入学して初めての音楽の授業で、先生は僕達にこう問われました。そして、三年間で自分なりの答をみつけよう、とも……。

「アジアの民族音楽」の学習では、ビデオで見た、濟州島の青い海、斜面に並ぶ家々、海で

働く海女さんが、僕の日常見慣れている光景とあまりによく似ているので、とてもうれしくなったのを覚えています。海女さんの歌う歌も、幼い頃聞いたことのある歌に似ているような、そんな気がしました。韓国の伽倻琴などは、音だけ聞いたら、日本の箏と変わりません。日本は島国です。けれども音楽は海を越え、言葉の壁を越え交流するのですね。ちなみに僕は、ベトナムの「サオ」と呼ばれる竹フルートの音が好きでした。同じ竹を使っても、日本の尺八とベトナムのサオでは、演奏の仕方音色もずいぶん違うことが分かりました。アジアの民族音楽の学習を通して僕は、特別な演奏会ではない、自然の中で生活に溶け込んでいる音楽の楽しみ方を学ぶことができました。

「音楽には、どんな力があるのだろう。」
「自分にとって音楽とは何なのか。」

中一の二期。それは、ベートーベンについて考えるにあたって、先生が僕達に出された問いでした。あまりにも漠然としたこの問いでしたが、ベートーベンの生涯について、あるいは時代的背景等を調べていくうちに、何となくつかめてきたように思えました。それまで聴いていた「交響曲第五番」と、ベートーベン

ソネット 14行詩
箏 一般的には琴